都市農業ワーキングチームによる都市農業における課題整理

資料４－２

	担い手（生産・労働力・販売）	農 地	多面的機能（景観・交流等）	税
行　政	**【補助事業等による生産振興・経営体育成】** ○経営規模が小さいことやグループ化が難しいことから、既存の補助事業は要件を満たすことが困難 ○都市農業の実態に合ったパイプハウス、直売所等の支援メニューが不足している ○農地が小さく分散しており、プロ農家になりうる大規模経営体の育成が難しい **【都市と調和した農業の推進】** ○農福連携や園芸療法等を通じた都市と調和のとれた農業生産の推進 **【販売力強化】** ○地域や個別農家ブランドを活かした販売が必要（高付加価値化） ○直売施設（京野菜ランド登録施設）の機能強化 **【都市農業者への栽培・経営指導】** ○ブランド力のある新たな品目導入提案及び栽培指導が必要 ○後継者や新たな担い手の確保・育成する体制が不十分	**【土地改良施設の長寿命化】** ○都市化により農地が減少し、虫食い状態になる中で、老朽化した土地改良施設（農業用用排水路等）を維持・管理できる体制が構築できていない **【都市農地（生産緑地）の有効活用】** ○都市農地の活用方法（市民農園、担い手集積・農産物の供給拡大、防災等）の検討・提案ができていない ○住民に対する都市農地の多面的機能等への理解促進が不足しており、有効活用できていない **【都市農地維持に向けた意識向上】** ○（主に市町に対して）大きな転換（「宅地化すべきもの」から「都市にあるべきもの」）の、市町の都市計画施策（マスタープラン、生産緑地、田園住居地域等）への速やかな対応が求められる ○都市農業振興に対する行政の意識が相対的に低い **【都市農地への支援】** ○都市農業地域の大半が農業振興地域でないため、主要な補助事業（主に国庫事業）が対象外 ○手摘みを中心とする高単価宇治茶の需要低迷による耕作放棄が拡大	**【都市住民による農への参画】** ○農業体験、市民農園への参加等への呼び込みが不足している（住民と農地をむすぶ仕組みづくり） ○茶の手摘みや米・野菜等の農業体験等、生産者と消費者との交流を通じた営農活動への理解促進活動ができていない ○都市住民が農業とふれあう機会が少ない **【都市（住民）への理解促進】** ○イベント（京野菜フェス、品評会等）等による都市農業の啓発が不足 **【都市農地がもたらす良好な住環境の評価・保全】** ○小学校と都市農業が連携する機会が創出できていない（農業体験、食育、給食メニュー等） ○都市農地が、水、土、大気、緑地空間等の良好な住環境に寄与する空間として評価されていない **【防災協力農地の拡大】** ○防災協力農地指定の取組が進んでいない	**【税制度の周知】** ○税の優遇等を契機として都市農業を維持・振興するために、税制度の周知が不足している **【税負担の軽減】** ○税負担が大きいため、固定資産税・都市計画税の優遇、相続税納税猶予の適用拡大等といった、都市農地維持のための税制度の検討が必要 ○各種手続きが煩雑
農業者	**【補助事業等を活用した生産体制の整備】** ○効率的かつ高品質な農産物の安定生産のための機械・施設等の導入 ○小規模ほ場が多いため、大規模機械導入による効果（省力化）が得られにくい ○小型農業機械が補助事業の支援対象にならない **【後継者等の確保・経営拡大】** ○農地の受け手が一部の担い手に集中しており、近い将来受けきれなくなる ○家族経営が中心であり、現状以上の労働力の確保が困難 ○茶の摘み子等の短期間かつ技術が必要な労働力が高齢化しており、安定的な確保が困難 **【立地を活かした多様な販路の確保】** ○農産物の高付加価値化 ○立地を活かした販路を確保できていない（直売・市場出荷・自動販売機・契約栽培・小売店の産直・振り売り等） ○食品産業等との連携強化 ○直売所等の販売力の強化（農産物の品質の高位平準化等） **【都市住民との共生（配慮と理解）】** ○住民からのクレームの未然防止（農薬・肥料の飛散や臭気、農業機械の騒音、乾燥機のほこり飛散、道路への泥の落下等） ○近隣住宅への配慮による農作業への制約が大きい ○シカやイノシシ以外にもネコやカラスによる獣害が深刻	**【経営規模拡大】** ○宅地化農地は流動化が進んでいないため、居住地周辺での規模拡大が困難 ○生産緑地等は近隣住民との関係づくりが難しく、新たな賃借は負担が大きい ○ほ場形状や進入路の問題から、農業用機械の使用が困難 **【土地改良施設の維持・管理】** ○土地改良施設（農道、農業用用排水路）の維持・管理体制の弱体化 ○土地改良区の体力低下（構成員、費用負担等） **【都市住民との共生】** ○産業廃棄物、ゴミ等の不法投棄 ○農道等と生活道路の重複 ○隣接農地の宅地化による営農条件の悪化 ○農作物や資材等の盗難	**【住民との交流促進】** ○近隣住民との良好な関係の構築による営農への理解促進 ○地元住民との交流機会が不足 ○イベント等の運営や地域との連携、周知等について相談できる場（窓口）がない **【食育活動の推進】** ○幼保や小学校と連携した食育活動や土に触れる機会の提供ができていない ○市民農園・体験農園等へのニーズに応えられていない **【防災協力農地の拡大】** ○災害時の避難場所としての提供が進んでいない ○収益性の確保と多面的機能の発揮の両立が難しい（農家負担が軽いことが重要）	**【税制度の理解促進】** ○青色申告の普及・定着 ○税制度と活用方法の周知・理解
住　民	**【都市農業を支える力】** ○地元産農産物の積極的な購買など地産地消への意識が低い ○都市型ＣＳＡ（地域消費者が地域農業を支える）の構築 **【新たな担い手としての期待】** ○援農ボランティア等に参画する機会がない ○新規就農者の獲得等、都市農業の新たな担い手の掘り起こしが必要	**【都市農業（農地）への理解促進】** ○農地を有効活用できていない（イベント・都市農地維持負担・税制優遇への理解活動の場、児童の食育活動の場等） **【農地（緑地）のある生活】** ○農業に対する配慮不足（ゴミ投棄、ネコ害等）	**【都市農業（農地）の重要性の理解】** ○都市農業（農地）によって良好な生活環境がもたらされることに気づき、「あるべきもの」として意識されていない **【都市農業の利用促進】** ○身近な娯楽としての市民農園・体験学習農園の利用拡大 ○食農体験や生き物とのふれあい、景観等、良好な子育て環境として都市農業（農地）が活用できていない ○農業等に興味があっても、相談窓口がわからないため、機会を逃している **【防災協力農地としての活用】** ○都市農地が防災拠点となりうるという認識が低い	**【都市農業（農地）への理解促進】** ○税優遇を受ける都市農地に対する理解促進